

中期経営計画(2022年度-2024年度) 説明会

質疑応答要旨

日 時： 2022年3月17日 15時～16時

説明者： 代表取締役社長 西本 麗

Q1. 主要製品分野の見通しで、基盤製品の電子材料関連製品が中長期的に需要拡大を見込まれているが、具体的な販売計画を教えてください。

A1. 当社の電子材料関連製品は、川上に位置しており最終的な詳細用途は不明であるが、コンデンサー用やハイグレード半導体の製造工程で使用されている。これらの需要は今後拡大していくと見込んでいる。個別の売上高は公表していないが、現在の売上高は数十億円規模であり、次期中期3ヵ年で約2割の増収を計画に織り込んでいる。

Q2. 機能製品・新規事業拡大で住友化学グループとの連携を強化されますが、販売及び購入規模はどの程度か教えてください。

A2. 住友化学グループへの売上高規模は、医薬中間体等の一部製品を住友化学グループ会社経由で販売しているものを含め全体の2割弱である。内容は、イオン液体、光学材料品及び医農薬中間体等を販売している。

一方、住友化学グループからの購入規模は、当社千葉工場が住友化学千葉工場に隣接していることもあり電力・蒸気等の用役やアセトアルデヒド等の原材料を購入しており全体の3割である。

これらの売上高及び購入金額の割合から、それほど住友化学グループに依存しているわけではなく、外部取引の割合もそれなりに大きいと考えている。

シナジー案件については、従来から取り組んでいる医農薬中間体や光学材料製品等は引続き研究開発も含めたプロジェクト体制を組んで進めており、住友化学グループの安定したサプライヤーになるべく注力している。

また、調達面は、中国やインド等の海外からの調達も増加しているため、従来の商社からの情報だけでなく住友化学の海外調達機能を活用させてもらっている。更に千葉工場のCO₂排出量削減は、住友化学千葉工場との連携事業が具体的に進んでおり、今後も販売や調達面だけでなく多様な連携ができると考えている。

Q 3. 基盤製品及び機能製品・新規事業について売上高ベースの計画であるが、営業利益ベースでの比率を教えてください。

A 3. 具体的数値は公表していないが、総じて基盤製品に比べ機能製品・新規事業の方が高収益である。機能製品・新規事業には比較的高収益が見込める医農薬中間体等を含んでいるが、一方で基盤製品はアミン類やピリジン類等の基礎製品であり一般素材として使用されることが多いためそれほど高利益が見込めない。
結果として、営業利益ベースでは、機能製品・新規事業の比率はもっと拡大すると考えている。

Q 4. 機能製品・新規事業拡大見通しの中で、有機金属触媒やイオン液体等が伸長していくとのことであるが、今後主力となるビジネスを教えてください。

A 4. 次期中期経営計画では、有機金属触媒や医農薬中間体ビジネスの比率が大きく伸長すると見込んでおり、既に受注している製品もある。また、医農薬中間体は、住友化学グループとのシナジー関連で開発も進めており、更にウエイトが更に大きくなると考えている。
長期的には、自社技術で現在開発中のウレタン樹脂低温硬化触媒を次世代の主力商品として育てたいと考えているが、大きく伸長するのは次々期中期の 2025 年度以降になると見込んでいる。これらの自社技術製品については、従来の受託ビジネスが大きく拡大すると共に次期主力製品として育てていきたいと考えている。

Q 5. CMIVプラント新設以降の生産能力等の拡大方針について教えてください。

A 5. 次期中期経営計画で CMIVプラントはほぼフル操業になると見込んでいるが、当社千葉工場の現有敷地では、これ以上のプラント増設が難しい状況である。
但し、CMプラント群（4系列）の中で CMIII及び CMIVプラントには拡張スペースがあり部分的な設備増強が可能であるため、製品ポートフォリオの見直しの中で必要に応じて生産性向上を図ることは可能である。
2025 年度以降、増強余地が無くなることも考慮し、新立地を検討することになる。検討にあたっては、自前で投資するのか或いは他社との提携となるか、更には投資コストが抑えられ適切にオペレーションが可能であれば海外立地等も検討に含めるなど、制約を付けずに検討していきたい。

Q 6. CMIVプラントのフル生産が当初想定より早まるが、どのような用途或いは生産品目が当初想定より増えているのか、また生産性向上はどのような取り組みをされるのか教えてもらいたい。

A 6. CMIVの操業計画について、ウレタン樹脂低温硬化触媒は当初想定より遅れているもののそれ以上に有機金属触媒や医薬中間体等の新規ビジネスが次期中期の3ヵ年で想定を上回るスピードで拡大することとなり前倒しでフル稼働になる見込みである。

一方、生産性向上については、先ずプロセス合理化やDXによる生産管理レベルを上げることに注力し、1バッチ当たりのタイムサイクルを短縮する等、同じ設備であっても生産量を増加させることを検討したい。

その上で、先述の通りCMIII及びCMIVには増強スペースがあるため、必要に応じて設備投資による生産能力向上を検討したいと考えている。